

# 振武

発行元：  
一般財団法人 熊本公徳会  
熊本市中央区  
上通町2番31号  
びぶれす熊日会館 6階  
熊本公徳会武道場「振武館」7階  
電話 096-327-2600  
FAX 096-327-5221  
ホームページ  
〈https://z-kk.org〉

## 振武館

熊本公徳会武道場「振武館」は、昭和8年3月、熊本市上通町・鎮西館の広大な敷地の一角に建てられました。「教育学問の真の目的は人格の備わった人間を養成することにある。新たな道場は振武館と名付け、文武の基礎を学び、もって人格を磨くことにある」という設立の趣旨に沿って、いろいろ尚武の国・肥後の拠点として親しまれてきました。戦前戦後を通して、全国有数の選士を数多く輩出してきた振武館は、平成14年、びぶれす熊日会館内に近代的道場として生まれ変わり、広く青少年や一般に開放されています。

寄稿 馬場 孝夫・熊本市柔道協会会長

## 「生涯柔道」を貫く決意



馬場 孝夫会長

▽はば・たかお 昭和11年、人吉市生まれ。人吉高卒後、熊本県警察官拝命。県警察道部員として九州管区大会で活躍。熊本県柔道協会副会長。熊本市柔道協会会長。

黒帯を締めるぞ」と言い聞かせ、毎日のトレーニングに励みました。中学3年生の夏、昇段試験に合格。当時、人吉・球磨地域で中学生初めての有段者が誕生したと宇土虎雄先生からお褒め、激励の言葉をいただきました。高校に入学して間もない5月、初大会で先鋒として出場。優勝戦へ進み、八代工業高校の主力

選手と対戦。得意の釣り込み腰で勝利。先輩方も活躍し、八代工業を苦しめました。翌年の福岡大会で優勝し、全国大会の優勝戦まで進みましたが、大将戦で敗れ準優勝に終わりました。

また、県協会主催で国体予選を兼ねて選手権が開催され、この第1回の選手権中量級で優勝し国体に出場しました。選手生活を終え、勤務も刑事となり柔道衣を着る機会も少なくなりましたが、柔道を思わない日は無く、承道館を時々受けることができました。人吉、八代、牛深、熊本東、熊本北の各署の道場で警察官を、

そして地域の道場で少年や一般の指導を行い現在に至っています。公徳杯少年少女柔道大会を開催していただいているおかげで、振武館を知る人が増えてはいますが、知らない柔道愛好者がまだまだ多いのではなにかと思われまます。熊本市柔道協会が昭和21年に、次の年に県柔道協会が発足しましたが、活動の場所は振武館でした。田舎から出てきた私には、いつでも振武館へ行けば先生方から指導を受けることができるという思いがありました。現在は熊本市武道館や学校の道場など、熊本市内

には多くの道場があります。私の理想とする道場は、以前の振武館のように稽古に行けば多くの先生・愛好家が集まり、乱取り、技の理合いの研究指導、形練習をしている姿で、そういう道場を期待しています。数多くの偉大な柔道家・剣道家を輩出した振武館の更なる繁栄を祈念し、85周年をお喜び申し上げます。

生涯柔道を目指し、子供たちを私の信条「わが子を嫁にやる気持ちで育てる」であります。柔道を愛してやみません。生涯柔道を貫くことをお約束いたします。



# 愛好家集まる道場に

熊本市柔道協会の馬場孝夫会長から、寄稿がありました。

◇ 私たちが育った終戦直後は、自由に柔道や剣道はできませんでした。特に学校柔道は禁止されていました。更に物資が不足し畳も柔道着も簡単に手に入らない時代でした。そんな時に振武館には、柔道愛好家の先生方が集まり練習されていて、その先生方の力で教育委員会を説得、学校柔道が復活していったと聞いています。

私は中学校ではバレー部に入学しましたが、2年生になり柔道部が発足しましたので父の勧めもあって、友達を誘い入部しました。学校には柔道の専門の先生がおられず、部外の指導者から指導を受けました。

県大会予選では2年生・先鋒、3年生・大将で出

## 振武館物語

あの日に、何が…

時は今から85年前にさかのぼります。大正から昭和に時代が移り、人々が新しい年号に親しみをもち始めた昭和8年。その年の3月26日に「振武館」の開館式が開かれました。

その日は日曜日。熊本市手取本町（現在の大通町）の同館には旧制中学校の生徒や各道場から選ばれた演武出演者約300人と、県、熊本市および武道関係者ら来賓約200人が、続々と式に参列するため集まって来

昭和8年3月26日 開館式  
約500人が参列  
道場の完成祝う



振武館の開館式の様子を大々的に報じた九州日日新聞（昭和8年3月27日付）

染め抜きの手ぬぐいで鉢巻きをした人たちが地つき音頭を歌います。アールと固めて、その上に建てる館が、振武館の気配

わが練り きも練り ねり上げて やがて日本の 柱をばし しっかり立てよの 地 固めちや

人々は晴れやかな歌声とともに、懸命に心を一つにして綱を引いて地を突き固めました。その後、建築は順調に進み、また木の香りのする道場の開館式が行われたのです。

午前10時の開館式を前に招待客らが続々と集まり、剣道場を主体とした板張りの館内は立錐の余地がないほどの人で埋まりました。

式ではまず神事があり、引き続き、山田珠一・初代館長が「文武両道を修めることは青少年にとつていま最も大事なことである。同時に廉恥を尊び、節義を重んじ、礼容を慎むという人としての道を全うする人間教育の場とすることが振武館の目的である」と、あいさつ。来賓の祝辞や五高教授の講演もありました。厳かななかでの神事が終わると、二天一流の形の演武があり観客を魅了。静まりかえった館内で、真剣さながらの太刀さばりに拍手が鳴りやみませんでした。また剣道、柔道の健全育成」を目的とし、道、なぎなた、弓道、居た振武館。このようにし合などの演武も披露されました。